

## オリンパスについて海外機関投資家の緊急コメント（速報）

### 日本のコーポレートガバナンスに対して、海外機関投資家の見方は変わるのか？

オリンパスに関する一連の報道を受け、アイプリオでは海外の機関投資家のコメントを緊急に集めました。これは一社に限った問題ではなく、日本企業のコーポレートガバナンス全般に関わることになり得ます。皆様に、海外の機関投資家の見方を理解していただき、ご対応する際のご参考にしていただければと思います。

#### ● 匿名希望の英国のグロース投資家

オリンパス株は売り切っているが、引き続き状況を注視している。オリンパスのような大企業がなぜこのような状況に陥ってしまったのか、社内で話し合いを行っている。日本においては適切なコーポレートガバナンスを強化する法律がないことが要因のような気がする。

海外からの投資を維持するためには、コーポレートガバナンスの文化を大幅に変革する必要がある。特に英国の投資家は、ESGの文化が定着しているほか、英国スチュワードシップ・コードに従い顧客の代理として責任のある投資を行うことが義務付けられている。

#### ● 英国のJP Morgan Asset Management

現在の状況は、日本のコーポレート・ガバナンス・システムの見直しのスタートと言える。CEOを解任しても彼が何も反論をしないだろうと考えたオリンパスの取締役会は、非難の矢面にたったと言える。Woodford氏が復帰すべきだと訴えるHarris Associatesに他の投資家も同調すると考えている。